

小川哲×千早茜

直木賞受賞同期によるラジオ初対談！ 授賞式のエピソードやお互いの作風を語る

『Street Fiction by SATOSHI OGAWA』

6月4日、11日(日)5:30～5:55/TOKYO FM

TOKYO FM で毎週日曜朝 5 時 30 分から放送中の作家 小川哲がパーソナリティをつとめる『Street Fiction by SATOSHI OGAWA』では、6月4日、11日の放送で作家 千早茜をゲストに迎えます。小川哲と千早茜は、今年第 168 回直木賞を同時に受賞した“直木賞同期”。対談をするのはこれが初となります。直木賞授賞式のエピソードやお互いの作風についてなど、深いトークが繰り広げられました。放送をどうぞ、お楽しみに。



『Street Fiction by SATOSHI OGAWA』6月4日、11日の放送は今年、第168回直木賞を同時に受賞した小川哲と千早茜の対談をお届けします。授賞式のスピーチで小川哲が、「千早さんが控室でムカつくって言ったのですが…」という暴露話をしてニュースでも話題になりましたが、それについて千早茜は、「各社の編集者が『あれは小川さんのプロレスだと思うので…』と一斉に慌ててフォローしてきて。でも、受賞会場に向かう時、小川さんは『僕、(スピーチが)秒で終わるんで』って言ってたのに、すごく長くしゃべってましたよね」と当時を振り返り、小川哲からは、「あの時の会見、自分史上一番ウケが良くて。(芥川賞受賞の)佐藤さんが場を温めてくれていたのもあるんですが…。だいたい、受賞会見のスピーチって、誰も聞いてないシーンとなっていることが多いけど、あの時はウケがいいので気持ちよくなってしまっ。そういえば千早さんがおもしろいこと言ってたなって。その節は失礼しました」と返します。そして、2人からは、互いの受賞作品を読んだ感想、受賞前ノミネート段階での印象、2人で受賞することになったことについてなどが、それぞれ語られました。また、受賞したことによる変化が訪れたと振り返ります。2人からは、直木賞受賞にともなうある種の責任感のようなものも語られました。また、「『プロモーションなんでもやりますよ』と言ってしまったせいですと予定が入っていて…」という小川哲から、小説を書くときのスケジュール管理の難しさが語られ、千早茜からは10年以上職業作家を続けて身に着けた「自分がダメなことが分かっているの…」という千早流時間管理術が紹介されました。さらに番組では、小川哲が「台本に書いてあるから質問しますけど、これはもう何回も訊かれていると思いますけど…」と前置きをしながら、千早茜が小説を書き始めたきっかけや、子どもの頃に住んでいたアフリカ、ザンビアでの経験、2歳から日記をつけていたという過去を伺いました。千早茜が「昔は恥ずかしくて言えなかったんだけど…」と前置きした、「29歳」にデビュー年齢を決めていた理由とは？

2023年5月29日

さらに、千早茜の直木賞受賞後初の新刊2023年4月26日発売の『赤い月の香り』について、小川哲の感想、また、初めて続編を出したことについて、編集者の口車に載せられた(?)経緯、そして、刊行後に寄せられた読者からの熱烈な続編希望の意見についても伺いました。さらなる続編があるのかについて小川哲から尋ねられると「小川さんならどうします？」と千早茜。「僕なら～」と小川哲が提案した驚きの次作とは？

6月4日、11日(日)5:30～5:55の放送をどうぞ、お楽しみに。

【放送概要】

『Street Fiction by SATOSHI OGAWA』

◆放送日時：毎週日曜日 5:30～5:55

◆放送局：TOKYO FM

◆パーソナリティ：小川哲

◆完全版アーカイブ：<https://audee.jp/program/show/300005062>